

黒松内小学校 学校だより 令和5年度 5月号



# ぶなの里

黒松内町立黒松内小学校 令和5年5月25日発行  
TEL 0136-72-3023 FAX 0136-72-4601

## 《 教育目標 》

ブナ北限の里を愛し、  
たくましく未来を拓く  
子どもの育成

かしこく

やさしく

たくましく

## 白魔術と黒魔術

校長 荒木 俊 行

窓から見える山々もすっかり色づき、柔らかな黄緑色に包まれて、清々しく気持ちの良い季節となりました。子どもたちは、来月の運動会に向けての取組をスタートしたところです。

さて、先日6年生の国語の学習で随筆を書いていましたが、その中である子が言葉の持つ力について触れていました。言葉によってカづけられたり、逆に傷ついたりする、だからよく考えて使わなければ…という内容でした。まさにその通りだと思います。

私たちは普段言葉を交わし、周りの人とコミュニケーションをとりながら生活しています。そんな中でふと投げかけられた言葉によって気持ちが沈んだり、反対に上がったり…。誰でもそんな経験をしたことがあるでしょう。逆に、自分が何気なく発している言葉が相手に大きな影響を及ぼしていることもあります。

どれだけ相手を大切にしているかは言葉づかいからわかります。「言葉づかい」を漢字で表すと「心遣い」と同じ「遣」です。「言葉遣い」に気をつけるということは、相手を「思い遣る」ことです。自分ではそうしているつもりでも、コミュニケーションが成立するかどうかは受け手次第です。相手がどのように感じたかで、良好なコミュニケーションだったかどうかが決まります。さらに言葉だけではなく表情や態度も関係してきます。思いやりのある言葉、表情、態度であったかどうか、相手の反応は自分の心を映し出す鏡でもあるのです。

脳科学者の茂木健一郎さんは、そんな言葉の力を黒魔術と白魔術に例えています。黒魔術は、自分の欲望を実現するために相手を利用したり、あるいは敵意を抱いた相手をおとしめるために使われる魔法、一方、白魔術は、愛を成就させたり、美しいものを生み出したり、公のためになるような目的のために使われる魔法です。ですから嫉みや怒り、悪意から発せられた言葉は、受け取る側の力を奪い、不幸にする「黒魔術」であり、愛や好意があらわれる言葉、傷ついている人を救うような言葉は、相手を元気づけ、幸せにする「白魔術」であると考えられます。

今年度、本校では「あたたかい学級づくり」を重点として教育活動を進めています。各学級では友達や周りの人との関わりの中で、うれしかったことや良いところを見つけ、帰りの会や学級会で取り上げるなど、お互いの良いところを認め合う取組を行っていますが、日頃子どもたちと関わる私たちの言葉が自分自身や周りの人にどれだけの影響を与えているのか、力と勇気を与えるものなのか、逆にやる気や自信、可能性を奪うものなのか、言葉を十分に吟味しながら指導しなければなりません。言葉の持つ力をどのように使うかは、私たち次第なのであります。

みなさんは普段どちらの言葉を使っていますか？もしかすると私たち大人の方が「黒魔術」を使っているのかもしれない。

## 自分の命を守る学習～交通安全教室&避難訓練～

8日(月)、自転車教室がありました。普段は、習い事や遊びの時に乗ることが多いと思いますが、ちょっとした油断や不注意、また、正しい乗り方をしている相手車の不注意でも事故につながります。寿都警察署の方から、自転車の正しい乗り方やヘルメットの被り方や安全性について教えて頂きましたので、ご家庭でも、再度安全な乗り方をお子さんを話していただきたいと思います。

10日(水)、火災を想定した避難訓練がありました。避難経路や安全な避難の仕方の事前指導をもとに、落ち着いて訓練を実施できました。今後は、事前指導がない場合や、積雪状況の場合など、いろいろな場面を想像して計画していく必要があるという職員室でも話題になっています。

どちらの学習も、今年度の重点目標「主体的に課題解決に向かう子どもの育成」を軸に、改善を図っていききたいと思います。



自転車点検のポイントです!

ぶ・・・ブレーキはきくか  
た・・・タイヤの空気は入っているか  
は・・・ハンドルを上から見た時曲がっていないか  
しゃ・・・車体の点検  
べる・・・ベルは鳴るか

## 主体的な黒っこの様子～生活委員会～

児童会の中の生活委員会の日常活動に、「あいさつ運動」が計画されています。生活委員会の子どもたちが、登校する子どもたちに「おはようございます!」というさわやかな挨拶をしている様子がみられます。

担当の子どもたちは、玄関の外でも元気にあいさつしたり、自分からあいさつをしている子どもに「何年生?」と聞いてシールを渡して貼らせたりする活動をしています。昨日との人数の違いや、どの学年が多いか…などの「見える化」を、自分たちで考えて取り組んでいます。低学年の子どもは、シールの数を数えていました。算数の数える学習に結び付いています。そんな姿から、子供たちの主体的な発想や柔軟的な考え方に、様々な可能性の広がりを感じます。



## 開校140周年記念行事について

17日(水)、第一回目の実行委員会がありました。規約と推進計画について承認され、いよいよ12月2日(土)の式典当日に向けての組織が、始動しました。式典当日に向けての様々な取り組みに関して、会長の三坂様をはじめ、会の方々や教育委員会のご支援・ご協力を得ながら進めてまいります。

推進計画の基本構想にある「子どもたちに本校の歴史を知らせ、地域と共に創り上げてきたよき伝統を理解させるとともに、自分の学校に愛着を持てるようにします。」を大切にしながら、意義のある年となるよう取組を進めてまいりたいと思います。

